

令和元年度 江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画検討委員会

議 事 要 旨

開催日時：令和2年1月30日（木） 午後7時00分～午後8時40分

開催場所：総合文化センター 会議室

所属等	氏名	出欠
京都女子大学	○太田 貞司	出席
ダイヤ高齢社会研究財団	澤岡 詩野	出席
江戸川区医師会	◎小川 勝	出席
江戸川区医師会	○浅岡 善雄	出席
江戸川区歯科医師会	広瀬 芳之	出席
江戸川区薬剤師会	篠原 昭典	出席
東京都医療社会事業協会	藤井かおる	出席
江戸川区訪問看護ステーション連絡会	上村 和子	出席
江戸川区熟年者福祉施設連絡会	関口浩太郎	出席
NPO法人 江戸川区ケアマネジャー協会	三田 友和	出席
江戸川区訪問介護事業者連絡会	江面 秀樹	出席
江戸川区地域密着型サービス事業者連絡会	梅澤宗一郎	出席
熟年相談室（地域包括支援センター）	後藤たか子	出席

所属等	氏名	出欠
江戸川区生活支援協議会	大越利依子	出席
江戸川区民生・児童委員協議会	山口 昌一	出席
江戸川区社会福祉協議会	山崎 実	出席
公 募	寺本 孝行	出席
公 募	片岡 英枝	出席
公 募	菊地 智恵	出席
公 募	池山 恭子	出席
江戸川区連合町会連絡協議会	中川 泰一	欠席
江戸川区くすのきクラブ連合会	村田 清治	出席
江戸川区ファミリーヘルス推進員会協議会	石井 恵子	出席
江戸川区議会議員	白井正三郎	出席
江戸川区議会議員	竹平 智春	出席
江戸川区副区長	山本 敏彦	出席

◎委員長 ○副委員長

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 交代委員の紹介

4. 議 事

(1) 江戸川区の熟年者を取りまく状況

(2) 熟年しあわせ計画及び第7期介護保険事業計画の進捗について

委員長

江戸川区の熟年者を取りまく状況、第7期計画の進捗について、事務局の説明をお願いします。

事務局

資料2～4について説明

(3) 国の動向について

(4) 計画検討スケジュールについて

委員長

続けて国の動向、計画検討スケジュールについて、事務局の説明をお願いします。

事務局

資料5～6について説明

(5) 意見交換

委員長

令和元年度の進捗について、お一人ずつ、ご意見をいただきたいと思っている。

委員

報道で介護職の有効求人倍率が高いまま推移しているという話があり、こういった報道に触れるたびに一区民として不安を感じる。いくら介護事業者、医療従事者が努力を重ねてもどこかで限界があり、仕組みを継続可能とするには区民一人一人の介護予防に対する努力が欠かせない。しかし、介護予防を全区民に浸透させるのはとても大変で、1番のネックは健康に対する無関心層である。今、小学生の子どもたちも60年後には介護事業の対象者である。その子どもたちにとって自分の健康管理をすることが当たり前の社会を目指すことが必要である。学童期に積極的に教育することで、健康寿命の延伸、あるいは介護予防の意識を根本的に高めていくことができるのではないかと思う。

委員

薬剤師会としては健康サポート薬局を展開し、なるべく健康でいられるための取り組みを行っている。本人が薬を取りに来られない場合、以前はヘルパーさんが取りに来ることが多かったが、最近はお孫さんが取りに来るケースが増えている。全国的には、介護のために子どもが学校に行けないというヤングケアラーのケースが多々あると聞いている。中学卒業後、高校受験をあきらめて通信制に通うという知り合いの子もいる。そういった問題に取り組んでいきたいと思っている。

委員

医療と介護の連携に関しては入退院支援研修に協力させていただいており、ケアマネジャーの連絡窓口リストを作成し始めたので、今後も使いやすいものに変えていきたいと思っている。医療福祉連絡会では、熟年相談室とのグループワークを通じて、困難事例中心のテーマで取り組んでいくことになっている。8050問題、身寄りのない方、キーパーソンのいない方への対応で現場は困っている。新しい入院時サポート事業や成年後見制度に関しては、使いたくても条件を満たさず申請に至らないことやあきらめてしまうケースがあるため、このあたりの拡充をしていただければと思う。ケアマネジャーは頑張っているが、セルフネグレクトで拒否が強いと亡くなってしまいうケースもあるので、措置という考え方もないと難しい。ケアマネジャーの人材確保と財源の確保が課題である。

委員

在宅療養相談窓口事業で夜間電話に出ている。継続して相談される方の利用は多いが、新規の電話の件数は少ない。顔が見えない分いろいろな相談をしやすい場であり、毎日当番でおこなっているので活用していただきたい。

委員

介護事業者の倒産件数が年々増えており、特に訪問介護は大変な状況になっている。社会福祉法人についても、国は何年も前から合併を進めているがなかなか進んでいない。また社会福祉法人の大規模化、協働化という話があったが、これをやるために本部を作りそこに人を入れなければいけないので結局どうなのかと思っている。介護保険の3本柱である訪問介護、ショートステイ、デイサービスがかなり危ないということをお伝えしたい。

委員

魅力がなくなっているのか、仕事が多岐にわたっているためなのか、ケアマネジャーのなり手が少なくなってきた。また、質の向上が求められているのを感じる。区を受託研修やケアマネジャー協会の独自事業として行っている研修があるが、参加のない事業所もあるため横のつながりを活用しながら参加を促していきたい。医療との連携については、医療の方々にご理解をいただき、連携が取りやすくなってきているので引き続きお願いしたい。ケアマネジャーの質の向上を目指していきたい。

委員

介護予防に力を入れたいが、人手不足のため予防に人が割けない状況である。薬の受け取りは介護保険では生活援助になるが、身体介護の方が単位数が高いため事業者は身体介護で依頼を受けてしまう。そうしないと事業運営ができなくなってしまうところもあるし、国の

方針で生活援助が総合事業の方に行くのも見据えての仕方ない選択であると思う。事業者がサービスを選ぶということが始まってきているが、こういうところから改善していかないと今後高齢者を支えることができないのではないかと思う。また、事業所の M&A も増えてきているがうまくいった例もない。検討委員会を通じて現場の助けになるような提案を出して今後につなげていきたい。

委員

今日、若年性認知症の方2名とお話をしてきた。現場でも認知症の方が増えていると感じる。現場に関しては質というよりも量の確保ができていない。西の方では閉鎖しないといけないという声も聞こえてきているし、江戸川区でも黒字で運営していたが人材不足のために他の法人に売ったという話もあり、人材不足の危機感を感じている。区もいろいろ考えてはくれているものの、現場からもいい施策を提案できるよう声をあげていきたい。

委員

最近、熟年相談室で課題だと感じていることは虐待件数の増加と今までになかった分野の相談に時間を要していることであり、連携のスキルを高めていくことも課題である。地域ネットワーク構築のため、熟年相談室としての担当地域からなごみの家がまだない地域へのバックアップまで取り組んでいる。区民の皆様の窓口として、まずは相談員が離職することのないように管理し、専門性を発揮できるよう区とも連携を図っていきたい。

委員

認知症の方への生活支援、引きこもり・社会的孤立への生活支援、災害時における生活支援、そして人材育成と確保、この4点が課題である。今日、さわやか福祉財団発行の「いわゆる有償ボランティアのボランティア性」という冊子をお持ちした。有償ボランティアはだいたい40年くらいの歴史があるが、途切れてしまっているのが課題であり担い手もない。次世代の助け合いが必要であり、若い方たちに参加してもらいこれからどのように助け合っていくか考えていきたい。

委員

民生委員を10年やっていて、高齢化をしみじみ感じている。10年前よりも自分たちの問いかけに答えてくれる方が減った。80歳、90歳の親と住んでいる50代くらいの引きこもりの方をどうするかが課題である。また、民生委員のなり手が少ないため、現在一人で2地域を担当している。無償のボランティアだが、以前に比べ民生委員の活動に時間を取られている。なんとか新しい人を入れて活動を頑張っていきたい。

委員

現場では今までに考えられなかったようなニーズがたくさん出てきている。2025年、2040年を見据え、さまざまな努力が続けられているが、なごみの家の取り組みを通じて、そういう課題についていかに切り開いていくか考えている。なごみの家で一番大切なことは地域福祉力をいかに高めていくかであり、地域の方に理解していただくことが当面の課題である。また、成年後見制度については、利用場面が増えているため、より利用しやすい制度にしていきたい。江戸川区全体で地域福祉力を高めることに注力していきたい。

委員

今年、後期高齢者になったが、自分でも元気であると感じており、そういった方はたくさんいると思う。どんどん高齢化していく社会を良くしていくためには、元気な高齢者が力を出すことが大事である。若い方を取り入れることも必要だと思うが、若い方は収入を伴わないと入ってこないの、それよりも元気な高齢者を引き入れればいい。関心を持ってもらうために「大人のるるぶ」の配布などもあったが、元気な高齢者が力を出し合って支えていくという考えが必要かと思う。

委員

昨年の3月でリタイアしたが、マンション生活なのもあり地域に知り合いがいない。何をしようかと思っていたが、区の広報でくすのきカルチャーセンターを見つけ、とりあえず勉強してみようと思い一歩踏み出した。仕事を辞めてから広報をよく読むようになり、さらに今回の事前資料を見てさまざまな施策を行っていることを知り、当事者になって初めて知ったこともたくさんあった。外に出て何かをやりたいと思ってもそういう機会をどのように得るかが課題であり、眠っている人材を引き出すための考えがあったらいいのかなと一区民として思う。

委員

ケアマネジャーをやっているがなり手が少なく、結果的に一人にかかる負担が大きい。自分の法人はケアプラン作成のほかに訪問介護、通所介護をやっているが、離職者が出た場合、ケアマネジャーがそちらに異動せざるを得ないことがある。人材確保が本当に経営を圧迫しており、人材紹介会社に求人をかけて決まれば100万単位のお金がかかるので、小さい法人では厳しい状況である。人材不足をどのように解決していくか、皆様とともに何とか乗り切っていきたいと思っている。

委員

前回までは NPO 法人だったが、今は第二種の社会福祉法人を運営している。介護事業者でもあり、小規模事業所の倒産を耳にすると自分たちのことと感じる。人材不足であり、サービス提供責任者の学習時間がないのが現実。将来どうなるのかが見えず、今度の制度改正も不安である。有償ボランティアの国の動向については、今までそれぞれの地域で知恵を出して築き上げてきたものがあるので、それを阻害するようなことにならないよう声を上げていきたい。

委員

地域の年配の方たち向けに、1か月に1度地域ミニデイを開催している。フレイル予防に関しても健康サポートセンターを手伝い、勉強をしながら進めている。地域ミニデイでは小岩地区を10年担当しているが、高齢化が進み人数が減っている。60～70歳くらいの方が参加してくれるとありがたいと思う。

委員

くすのきクラブは高齢者が健康寿命をどれだけ延ばしていけるかを目的として活動している。参加は高齢者の人口に対して1割ほどで、一生懸命勧誘していても加入につながらない。しかし入らないからと言って放っておくわけにはいかないと思っている。参加者が一人でも増えるよう一生懸命頑張っていきたい。

委員

いろいろ厳しい意見をいただき、行政としても取り組んで参りたい。保険の給付費が30年度の時点で392億ということだが、介護保険が始まった当時の給付費は91億だった。対象の方も増え、当時と母数も違うというのもあるが、20年近くで介護の社会化が進んでいると改めて思った。江戸川区は、医師会の先生方を中心にさまざまな団体の皆様と一緒に、何とかしないとイケないという思いで進めており、誇りに思う。皆様とともに現在の厳しい状況を打破していきたい。

委員

江戸川区は要介護認定率、後期高齢者の一人当たりの医療費が23区で一番低いが、皆様のおかげのことだと思う。これから少子高齢化が進む中で医療や介護にかかわる給付をいかに抑えるかが課題であり、フレイル予防に力を入れていきたい。人材確保、定着が大きな課題であると、現場を訪問して感じる。江戸川区としても新年度予算案にも組み込み、対策も取っているが、みなさまのお声を聞きながら持続可能な介護保険制度となるよう取り組んでいきたい。医療と介護の連携の推進のために会議体ができていることは大きいと思う。今後も活発に取り組んでいただきたい。

委員

江戸川区は健康長寿のまち、介護予防推進のまちとして取り組んできており結果も出ているが、現在、くすのきクラブ、リズム運動、くすのきカルチャーセンターの参加者が減ってきている。昭和 50、60 年代から作ってきたシルバー人材センターを含めた生きがい施策はヒット作だと思っており、今後、人数を増やしていきたい。元気な高齢者などを対象に総合人生大学も作ったが、そこに入らない人などに向けた新たな施策のヒット作を作っていかなければいけないと思っている。人材不足に関しては、シルバー人材センターが成功したように働いてお金を得ることは喜びであり、有償ボランティアが大切だと思う。

委員

最近いろいろな地域づくりを見ている。福祉のまちづくりという言葉がでてきたが、何らかの助けが必要な方が地域でこれだけ増えてきている中で、この人を支えるために多様な人たちがつながっているということ。介護であり、医療であり、地域の住民がそれぞれの視点でその方を幸せにすること以上に、自分たちがやっている取り組みが地域コミュニティを作っているという大きな視点を持つことが必要だと感じている。その中で「共生社会」という言葉があるが、実際どのような社会なのか問われないうままこの言葉が使われている。助けが必要な方に何かしてあげるだけではなく、その人のできること、やりたいことを社会の一部につなげる視点が求められている。助ける側、助けられる側というふうに社会を作っていく時代ではない。共生という中で支え合っていくという視点が求められているのではないかと感じる。

副委員長

全ての自治体が毎年評価シートを作り施策をチェックしているわけではない。この試みはいいことなので、今後肉付けしながらレベルアップしていただきたい、最近、家の近くのなごみの家を見たが、地域に定着していると感じた。

皆さんのお話を聞いて3点お話ししたい。1つは社会福祉法人の協働の問題。厚労省の研究事業で委員会の委員長を務めているが、国は進めようとしているがなかなか進んでいない。江戸川区としてできるものは何かを研究することが大事であると思う。社会福祉法人の中でも小さな事業所が生き残れるような仕組みが大事である。次に人材確保について、中核を担っている人が多忙により研修にも出られず、疲れきっているという問題がある。今働いている人に学べる場を提供し、次の世代に引き継いでいく必要がある。最後に外国人に期待するという話があるが、ベトナムでも高齢化が進んでおり、今後日本に派遣する人材はいないという話も出ている。これらの課題に向き合っていくべきである。

副委員長

人材確保の問題が本格的な話になってきたと実感した。反省するのは、この仕事が非常に価値のある、やりがいのある仕事だと認められてこなかったことだと実感している。また、今の若者に対しては、人への思いやりや帰属意識が薄くなってきていると感じ、この子たちが介護の仕事をしてくれるのかとネガティブなイメージしか出てこない。人材確保に関しては介護保険に関わる人が一斉に何かをしなければならないと感じる。ケアマネジャーに関しては、要介護者の病気や身体のことを勉強して欲しい。自分たちで仕事のレベルを上げて、イメージを良くする必要がある。

委員長

貴重な多岐にわたるお話をありがとうございます。人材確保や地域の問題など、さまざまな問題が江戸川区にはある。国や都の関連する会議の委員をやっており、他の地区も見ているが、江戸川区は医療と介護など、さまざまな連携がとれていると思う。こういった連携を更に強くしていくことが必要である。

国はいろいろなことを考えているが、間に受ければいい結果が出るとは限らない。しっかりと区民目線で考えていかなければならない。元気な高齢者の活用も重要である。地域の力を地域で耕していかなければならない。皆様のご支援、ご理解をいただければと思っている。

5. その他

事務局

次回の開催予定案内

日時：令和2年5月29日（金）午後7時から

会場：グリーンパレス

6. 閉会

委員長

それでは、本日の議事を終了する。